

えちぜん 議会たより

vol.
68
2022.5.1



越前町

人と技
海土里織りなす
快適なまち



「桜の名所」西徳寺保育園

目次

第1回臨時会・3月定例会報告	2P~5P
全員協議会での当初予算質疑	6P~7P
議員7人が一般質問	8P~14P
出欠状況・表紙の写真	15P
自治功労賞受賞	15P
がんばってます！・編集後記	16P



色とりどりに可憐に育て、子供達

第1回臨時会

会期/1月26日

専決処分の承認

7月豪雨配水管災害復旧

980万3千円

国の補助金を受け、7月の豪雨で被害を受けた真木区・横山区の配水管の復旧にかかる工事費を計上する。

子育て世帯臨時特別給付

1億5,057万5千円

国の補助金を受け、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に影響を受けている子育て世帯の生活を支援するため、高校3年生相当までの子どもを養育する世帯に対し、先行給付5万円に加え、追加給付5万円を現金で支給する。

ふるさと納税推進事業委託

1億2,000万円

全国的なふるさと納税の需要の高まりやポータルサイトのリニューアルなどにより、ふるさと納税寄附額が増加していることから、返礼品に要する委託料を追加計上する。

補正予算

新型コロナウイルス経済対策

1億7,161万7千円

国の補助金を受け、新型コロナウイルス

令和3年度 補正予算

漁船上架施設整備

4,400万円

漁船の船底の形状によっては、既存の船揚施設が利用できず、補修作業時には嶺南や近県の施設を利用しなければならぬため、国・県の補助を受け、越前漁港にレール式漁船上架施設を整備する町漁協への補助金を計上する。



越前漁港整備予定地

新型コロナウイルス感染症対策

1,125万円

国の補助を受け、町内小中学校において、新型コロナウイルス感染症対策等に係る経費を計上する。
● 手指・清掃用消毒液、ゴム手袋等
● 非接触式消毒液供給装置
● 二酸化炭素測定器、自動水栓
● 加湿空気清浄機

ルス感染症の影響により経済的に影響を受けている世帯の生活を支援するため、住民税非課税世帯に対し、1世帯に10万円の現金を支給する。

第1回臨時会に提出された議案等

Table with 3 columns: 議案番号, 件名, 議決の結果. Lists various council resolutions and their outcomes.

令和4年度 当初予算

地域公共交通の活性化

1億7,742万5千円

今年度から、コミュニティバス9路線を4路線に縮小し、デマンドタクシーを2区域で新規運行する。デマンドタクシーは自宅と指定停留所を直接つなぎ、利用時間の要望にも対応できるため、高齢者にとっても便利な移動手段となる。また、路線バスの維持支援補助をはじめ、高齢者運賃補助や通学定期券購入補助を実施し、公共交通の利用促進とバス運行事業者への支援を行う。

特産品の開発促進

1,080万円

まちづくり団体「TEAM越前夢おこし」が試験栽培を行ってきた「オリブ」の特産化を目指し、新たな産業と雇用を創出する。
● オリブ特産化協議会の設置
● 新たなプレイヤーの発掘と育成
● 「TEAM越前夢おこし」の活動支援
● オリブの植樹と栽培への支援

マイナンバーカードの普及促進

1,543万7千円

町民のマイナンバーカードの普及率を高めるため、申請時に町の特産品を配付するなど、カードの普及促進を行う。また、健康保険証利用や公金受け取り口座登録により付与されるマイナンバーの手続きを支援する。

3月定例会

会期/3月9日~18日

令和3年度 補正予算

専決処分の承認

Table with 4 columns: 公共下水, 一般会計, 議会, 議案番号. Lists council resolutions and their amounts.

条例

越前町会計年度任用職員の給与および費用弁償に関する条例の一部改正について

特別支援教育の充実を図るため、専門資格を有する職員を配置し、各校への指導や助言を行う特別支援教育専門員の給料を定める。
越前町交通指導員設置条例の一部改正について
成年年齢を18歳に引き下げる民法の

一部を改正する法律が施行され、また、交通指導員の確保が難しい現状を踏まえ、委嘱年齢を75歳未満まで引き上げるため、条例の一部を改正する。

越前町越前地域福祉センター条例および越前町デイサービスセンター条例の一部改正について

デイサービスセンターで提供する給食費の利用料金について、燃料費や材料費などの価格高騰や民間事業者との均衡を考慮した料金改正を可能とするため、条例の一部を改正する。

越前町農林水産業従事者単身用住宅の設置および管理に関する条例の制定について

農林水産業に従事する人材の確保および若者の定住促進、生活の安定を図ることを目的に、農林水産業従事者単身用住宅を新築したことに伴い、その設置および管理について必要事項を定めるため、条例を制定する。



農林水産業従事者単身用住宅「ラ・クリヤ」

地域医療の機器整備

3,233万2千円

織田病院の洗浄器や上部内視鏡、マンモグラフィなどの医療機器が経年劣化しているため、計画的に機器を更新し医療体制を整える。

越前焼産地の振興

1,580万1千円

越前焼の利用促進や若手後継者の育成、また北陸新幹線県内開業に向けた販路拡大に取り組むとともに、福井県や丹南の伝統工芸産地と連携し、越前焼産地の振興を図る。
● 越前焼振興補助
● 伝統工芸職人塾補助
● 地域特産工業振興対策事業補助
● 越前焼独立創業支援事業補助

北陸新幹線開業に向けての観光振興

9,944万1千円

越前町観光連盟や越前海岸観光協会連合会などの関係機関と連携し、北陸新幹線県内開業に向け観光振興を図る。
● 民宿リニューアル支援事業補助
● 越前町観光連盟補助

冬期間における道路の安全

1億4,964万2千円

消雪装置の適正な維持管理、また、町保有の除雪機械の管理および除雪作業の委託を行い、冬期間の安全な道路交通を確保する。
● 町道東気比庄線消雪設備修繕等
● 消雪ノズルの取替
● 除雪ドーザの購入

3月定例会に提出された議案等

■全会一致した議案

Table with 3 columns: 議案番号, 件名, 議決の結果. Lists various budget and administrative proposals.

■賛否が分かれた議案 (賛成:○ 反対:× ※議長は採決に加わりません)

Table with 14 columns: 議案番号, 件名, 議決の結果, and 13 individual council members' votes.

景観フォトコンテスト 新規事業 162万2千円

景観保全の意識向上と本町の素晴らしい景観資源の新たな発見を求め、景観フォトコンテストを開催する。

移住定住の促進 事業拡充

3,639万6千円

県地域住宅等整備計画に基づき、木造住宅の耐震化の促進を図る。また、移住定住の促進を図るため、既存住宅の多世帯同居につながる改修工事費や新築住宅建設工事費の一部を助成する。

図書除菌機の設置 新規事業

140万円

新型コロナウイルス感染症対策として、利用者に安心して図書館の図書を出借できるよう除菌機を各館に設置する。

※除菌機は、除菌効果のある紫外線が45秒書籍表面を除菌するタイプで、子どもや高齢者でも簡単に使用できるものを購入。

学校給食費の無償化 新規事業

2,024万9千円

保護者の経済的負担を軽減し子育てを支援するため、町内児童・生徒の給食費の3学期分を無償化する。

児童等への細やかな支援

1億1,891万3千円

各小学校に講師や各種支援員、看護師を配置し、児童へのきめ細やかな支援や授業展開、教職員の業務改善に取り組む。

人事

越前町教育委員会委員の任命について

次の方の任命について、全会一致で同意した。

島田雅子氏(茂原)

越前町政治倫理審査委員の任命について

次の方々の任命について、全会一致で同意した。

- 塚本 稔氏(氣比庄)
向當 一郎氏(江波)
渡邊 きみえ氏(小倉)
松村 仁氏(広野)
濱野 治代子氏(小樽)
河上 重春氏(三崎)

議員発議

ロシアによるウクライナ侵略に断固抗議する決議について

ロシアによるウクライナ侵略に断固抗議し、直ちに軍事行動を停止し、即時無条件でのロシア軍の撤退を強く求める。...

陳情・請願

陳情第1号

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書の提出について

越前町シルバー人材センター理事長より、令和5年に導入が予定されている「インボイス制度」が適用になった場合、従来の仕入税額控除ができなくなり、会員の配分金の減少または当センターが消費税を納税することになるため、安定的な事業運営が可能となる措置を講じていただけるよう、政府への意見書提出を求める陳情があった。

この制度の導入による、会員またはシルバー人材センターの負担は非常に過大で、高齢者の皆様のやる気と生きがいを削ぎ、地域社会全体の活力低下をもたらすことになることから、全会一致で可決した。

※左記ページの「賛否が分かれた議案」についての質疑・意見等

本会議採決時での質疑・答弁(一部を抜粋して掲載)

議案第24号(うち通学支援制度)

藤野議員 日々の生活に追われていく家庭を助けることが行政の仕事だと考える。本町の財政が厳しいことは分かっているが、通学支援については、令和5年度以降も令和4年度と同様に、補助率を据え置くという考えはないのか。

町長 本町の財政状況は県内でも非常に厳しい状況であり、ほかの補助金等も含め、苦渋の決断で減額の提案をさせていただいた。

付託された、産業土木常任委員会での意見(一部を抜粋して掲載)

請願第1号

「この見直しは、現行制度の再徹底がねらいであり、畑地化に対する今後の国県の対応や支援策などを見守る必要がある」との意見があった。

請願第2号

「この請願は、インボイス制度自体の導入中止を求めている。消費税制度全体の課題であり、町議会の判断範囲を超えている」との意見があった。

※全員協議会での質疑応答の一部を抜粋して掲載

「TEAM越前夢おこし」による、オリーブの特産化とは

時田議員 特産品開発推進事業で「TEAM越前夢おこし」による、オリーブの特産化について、町民にこの活動が認知されているのか、また今後どういうビジョンで進めるのか。

総務理事 令和3年度に、まちづくり団体「TEAM越前夢おこし」が設立され、外部専門家の指導を受けながらビジネス創出などに取り組んでいる。オリーブは積雪でも育ち、オリーブ油の国産需要が高く設備投資が安いということで特産化を目指しており、さらにオリーブを栽培することによって、若者の雇用や空き家対策にもつながることから支援をしていきたい。



オリーブの植樹

地域おこし協力隊に期待していることは

高田議員 本町の「地域おこし協力隊」に、町はどのようなことを期待しているのか。

総務理事 4月から採用する隊員は、空き家対策に取り組んでいた。空家を活用したビジネスに興味を持っており、定住しながら地元の問題などに対処していただき、本町に根づいてほしいと思っている。

通学支援補助制度改正について

伊部議員 町の通学支援の補助制度について、保護者にチラシを配布したと思うが、それに対し何か問い合わせや反響はないのか。また保護者への周知が遅いのでは。

企画財政課長 「今後どういうふうになるのか」という問い合わせが10件ほどあったが、議会の議決後に連絡するという回答をしている。

副町長 昨年12月に、中学校3年生および高校1、2年生宛てに、補助制度が変わること、令和6年度の補助額は3割程度になる見込みということと、補助申請は全て定期券購入後に変更するという事は伝えられていた。

ドッグランの整備は必要か

石田議員 悠久ロマンの杜に「ドッグラン」の整備は必要なのか。

産業理事 近年、ペットで犬を飼う方が増えてきており、将来的には悠久ロマンの杜にペットを飼った方が泊まれるような施設にすることを検討している。その前にドッグランを整備し、ペットを飼っている方呼び込みたい。

米農家に手厚い保護を

木村議員 現在、米農家が困っていることは、町長もご存じだと思うが、コロナ禍によって外食産業が不振等々を含めて、米の価格がここ数年下がっている。勝山市では10アール当たり4千円の補助金を出しているが、本町においても米農家に手厚い保護をしてほしい。

町長 現在非常に米が売れないことは、重々把握している。多方面にわたりいろいろ調べ、策を考えたい。

水仙ランドの事業収入増は

吉田議員 「水仙ランド」の事業収入は増額の見込みをしているが、どのような経緯なのか。



水仙ランド

除雪車の位置情報システム

高田議員 除雪車の位置情報システムの業務委託料は、県の見える化の話だと思うが、この新規事業によってどういった効果が期待できるのか。また、経費はどれくらいかかるのか。

建設理事 このシステムは、いわゆる除雪車に搭載したGPSの端末により、走行軌跡を見える化するもの。将来的には、一般向けサイト「み

伊部議員 保護者に配布したチラシには予定と書いてあるが、保護者はこうなるという解釈をしてしまっている。この件に関して、議会運営委員会や総務・産業土木常任委員会においても話し合いを重ねてきたが、今後議会には早めに丁寧な説明をして欲しい。町長に伺うが、この件に関して見直す考えはないのか。

町長 この改正案については補助率を公平にするという案で、本庁内で十分検討した。

防犯カメラと自主防災組織の進展

時田議員 交通安全対策費のなかに防犯カメラの設置があるが、どこに設置するのか。

また、消防費のなかに自主防災組織への補助金や物資の備蓄に対する経費があるが、昨年から自主防災組織の進展については。

防災安全課長 防犯カメラ設置工事については、全体計画で15か所を計画しており、既に12か所設置済みである。残り3か所は4年度で織田地区に設置する予定。

自主防災組織については、3年度に新規設立したのは2集落である。今後未設立の集落に対し、再度アクションを起こしていきたい。

ち情報ネットふくい」で、除雪車が通った路線を時間ごとに色分けし、公開できるように進めていく。

建設課長 経費については、462万円が導入経費、残り170万円がランニングコストで、来年度以降は170万円のランニングコストが計上されることになる。

旧玉川ビューホテルの活用計画は

伊部議員 旧玉川ビューホテルの活用計画はどうなったのか。

教育長 町が譲渡された経緯は、町の玉川温泉の管の老朽化で温泉が出なくなり、既存の温泉施設の方に迷惑をかけるということで、旧玉川ビューホテルにあった温泉を再活用する計画であった。そして本来であれば、壊した後に配湯施設等の建設をする予定だったが、そこから梅浦までの配湯管もかなり老朽化しており、布設替え工事も含めると、約1億円という経費が必要になるのが本当に町民の皆様のためになるのかということで、再度検討をしている。

当面、これまで利用してきた施設の方に迷惑をおかけしないよう、苦肉の策で、現在給水トラックで温泉水を運搬している。

今後の公共施設の運用

時田議員 民生部門の公共施設に限るわけではないが、毎年、施設改修工事を行っている。今後の公共施設の運用を考えていかなければならないのでは。

民生理事 今後個別に考えるより、町の「公共施設等総合管理計画」のなかで総合的に考えていきたい。

敬老会開催について

北島議員 今年から開催方法を大幅に変え、会場は1か所で、招待する方は77歳、80歳、88歳、90歳以上の該当者のみということだが、80歳になつてから88歳までの間の期間が長いので、この間に1回招待してもらえるとよい。

民生理事 来年度以降、皆様の意見を聞きながら検討していきたい。

今後の保育所の在り方は

佐々木議員 幼児の人数が少なくなるなか、今後の保育行政の在り方について、学校の統廃合と同じく見直しが必要なのでは。

副町長 保育所の入園児が非常に少ないところもあり、前向きに検討していきたい。



全員協議会にて、当初予算の質疑・応答



いっぱん質問
一部を抜粋して掲載しています。
全文をご覧になりたい方は、町ホームページ越前町議会「本会議会議録」をご覧ください。



いっぱん質問

いっぱん質問とは
議員が行財政全般にわたって町に疑問点をだし、所信の表明を求めるものです。



は せ が わ ま さ え
長谷川 眞恵 議員

な か に し き よ し
中西 清 議員

町長が目指すまちづくりについて

中西
どのような越前町を目指すのか

町長
昨年の町長選挙において、「人に優しく地域に優しいまちづくり」を基本姿勢に、少子高齢化、子育て支援など9項目にわたり具体的な18の政策について公約されたが、どのような越前町をイメージしながら、何を目指しているのか。

町長
本町は、海・里・山の自然環境を有し、全国に誇れる伝統工芸や文化資源を活かし、厳しい環境の中にあっても町民の皆様が生き生きと暮らしているまちづくりを目指している。

中西
町民の皆様が住んでよかったと思える町をイメージしながら、子育て支援や定住促進、高齢者福祉が充実した、人に優しく地域に優しいまちづくりを推進していく。

中西
「越前町財政健全化計画」に示されている健全化方策の歳入確保、歳出削減に取り組む、国や県の補助金、有利な町債など活用しながら、新規事業に効率的・効果的に取り組んでいただきたいが、町長に着任されてこの1年間、町

長が目指すまちづくりに向け実現した施策、令和4年度当初予算に盛り込んだ施策について伺う。

町長
実現した主な施策は、町三役の給料の減額、町長送迎の廃止、町長公用車の売却を行い、昨年7月からは町指定ごみ袋を半額とし、生活支援に取り組んだ。子育て支援として、10月から子ども医療費の助成を高校3年生まで拡充し、出産祝い金については、第1子・第2子分を新設し、第3子は30万円に拡充した。また、空き地バンクを設置し、補助制度と連携して空き家・空き地の流通促進を図った。豪雨災害に対しては、農地災害の地元負担金を従来の半分に減額した。

次に、当初予算に盛り込んだ施策は、快適居住施策として、住宅建設に対し最高で120万円を補助する「持家住宅建設促進事業」のほか、Uターンを促すため「移住就職支援補助」を新設した。また、コミュニティバスでは、予約制の乗り合いタクシー「チョイソコえちぜん」を開始する。子育て支援施策も、町内の新規結婚した夫婦の住宅取得に対する支援を新設し、小中学校における3学期分の給食費を無償化するなど、子育てしやすい環境づくりを図る。

中西
今後、優先して取り組む施策

町長
学校給食について、当初予算において3学期分の給食費無償化を盛り込んでいるが、永平寺町では既に無償化を実施、石川県小松市では中学校3年生のみの施行から全学年無償化を来年度から実施するなど全国的に無償化が進みつつある。今後、給食の完全無償化を実現するよう進めていただきたい。

町長
最後に、これから優先して取り組む施策の展望について伺う。

中西
現行の高校通学助成制度は、どの地区でも5千円を超える額を町が補助するという、4地区公平で画期的な施策と考える。今後少子化が進み、高校通学者の減少も見込まれ、子育て支援の充実や越前地区の過疎化対策の観点から、現行制度を維持していただきたいが、町長の所見を伺う。

町長
通学支援制度については、平成

への支援、町内に住所を置いて就職される大学生等の奨学金返済に対する支援や経済的事情による就学困難学生の支援等にも取り組んでいきたい。

更に、越前町型サービス付高齢者向けの住宅の整備や老老介護への支援策など、高齢者対策の充実を目指す。小中学校の再編については、よりよい形で再編が進むよう検討を重ねていく。

このほか地域連携として、町内の「丹生高校」が行っている地域探求活動を深め、地元商店街の活性化につながるよう取り組みを強化したい。

28年度に現在の内容となつてから、補助対象者や範囲が急増したため予算額が大幅に膨らみ、また、財政状況においては、財政指標の悪化が進み、ますます厳しい行政運営となっている。

このため、喫緊の課題として歳入規模に応じた歳出構造への転換を進めるため、補助制度の見直しを提案させていただいた。今回の提案により、保護者の方には自己負担が増えることになるが、厳しい財政状況にご理解ご協力をお願いする。

地域共生社会の実現に向けて

長谷川
相談窓口体制の現状は

長谷川
福祉に関する相談窓口は幅広く、障害や生活困窮、児童虐待などに関する相談は「福祉課」、子育てや母子保健などに関する相談は「子育て世代包括支援センター」、高齢者の介護予防や認知症、高齢者虐待などに関する相談は「地域包括支援センター」、年金や健康保険、健康増進などについては「健康保険課」が対応を行っている。（令和4年3月現在）

民生理事

福祉に関する相談窓口は幅広く、障害や生活困窮、児童虐待などに関する相談は「福祉課」、子育てや母子保健などに関する相談は「子育て世代包括支援センター」、高齢者の介護予防や認知症、高齢者虐待などに関する相談は「地域包括支援センター」、年金や健康保険、健康増進などについては「健康保険課」が対応を行っている。（令和4年3月現在）

長谷川
縦割り行政の弊害は

長谷川
町民からの相談に対する各課の対応について、縦割り行政の弊害はないのか。

民生理事

各課が連携して相談事に対応しており、必要であれば県の健康福祉センターや他市町の福祉部局、町社会福祉協議会など、各関係機関とも連携を取りながら対応しているため、弊害はない。

長谷川
相談事の丸ごと支援体制

長谷川
困り事を抱えている方に対し、1つの相談だけでなく関連する全ての課題を丸ごと対応するよう、福祉に関する総合相談室などの「ワンストップ」の支援体制を整える考えはないのか。

民生理事

窓口に来られた方の相談事が1つの課で対応できない場合、それぞれの担当者が向う「ワンストップ対応」に心がけているので、現時点では設置は考えていない。しかし、昨今の福祉に関する諸問題は複雑化、多様化してきており、障がい者が相談できる窓口の整備や相談員のスキルアップを望む声もあり、4月から専門職として社会福祉士を採用する。今後は、これまで以上に関係各課、関係機関との連携強化を図ると共に、専門的な知識を取り入れ、相談体制を充実させていくことが重要である。

長谷川
丸ごと集う居場所が必要

長谷川
町内の障がい者や生活困窮者、ひきこもり者も困り事を抱えており、孤独や孤立に陥らないために、自身やその家族から居場所を求め

る声を聞く。その方や子どもからお年寄りまで誰もが気軽に立ち寄られ、孤独や孤立が解消される丸ごと集う居場所が必要であると考えるが、所見を伺う。

民生理事

国がビジョンとして掲げる地域共生社会とは、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らし、生きがい、そして地域を共に作っていく社会である。

長谷川
越前陶芸村活性化施設の利用を

長谷川
ところで、越前陶芸村内に町が所有する越前陶芸村活性化施設があるが、この施設を地域共生社会のための福祉の活動拠点施設「丸ごと集う居場所」として利用してはどうかと思うが、町長の所見を伺う。

町長

この一体は、旧宮崎村時代から

長谷川
地域共生社会の実現に向けて

長谷川
地域共生社会の実現に向けて、町長の所見を伺う。

町長

町民一人ひとりが地域のつながりの中で社会から孤立せず、安心して生活を送ることができるよう地域共生社会を目指すことは重要なことである。

町としては、これまで取り組んできたことを基盤に、他機関の協働による包括的な相談支援体制の構築を図り、地域全体で社会を支えるような仕組みを整えていきたい。



時田 和良 議員

いっぱん質問



吉田 憲行 議員

指定管理者制度について

町の管理、指導は？

吉田 本町には多くの公共施設があり、観光や買物ができる施設がある。そのなかで、「指定管理者制度」を導入している施設の指定管理者へのモニタリング方法や施設の踏査方法は。

産業理事

本町の公共施設のうち、指定管理者によって管理している観光や買物ができる施設は、14施設5事業者ある。モニタリングについては、各指定管理者から月次報告で、施設の利用状況や収入状況の提出を受け、毎年度末には事業報告書により、業務実施状況や施設利用状況、料金収入や営業経費の収支状況の報告を受けている。また、毎年度開催している運営協議会においても、年間の事業報告を行い、委員からの意見を伺いながら施設運営の改善に取り組んでいる。

施設踏査については、指定管理者が作成している「施設清掃等管理計画」に基づき、施設の維持管理を行っており、担当課は施設訪問時や修繕・点検時に、施設の管理状態や利用状況を確認し、気づいた点については指定管理者と意見交換を行っている。

吉田

モニタリングや施設踏査が形式的になってはいないか、再度検証を願う。

吉田

近い将来、町管理の公共施設を指定管理に移行することや現在の指定管理施設の縮小・統合・民間に完全譲渡、もしくは廃止する考えはあるのか。

町長

今後の人口減少・少子高齢化による公共施設に対する利用需要の変化と厳しさを増す町の財政状況を踏まえて取り組むことが重要である。そのため、指定管理に移行することなども念頭におき、町の計画等に反映させようとして、公共施設を維持管理する。

吉田

観光施設は、費用対効果と町民の心情を念頭に、指定管理施設の民間譲渡・廃止等も計画に織り込む必要がある。

町長

指定管理者や町施設の使用者に、施設の適切な管理運営に対して、指導や要望をすることはできないのか。

自由な発想や豊富な営業手法を活用し、よりよいサービスを提供してほしいが、管理運営に対しては、設置目的を十分に理解し、適切に管理していただく必要がある。これまでも施設管理に対する指導や運営に関する意見交換などは随時行っているが、行き届いていない点もあるので、改善に向けて指定管理者等と協議をしていくと共に、しっかりと指導を行っていく。

越前町の公共施設の管理・運営について

個別施設計画策定の進捗状況は

時田

本年1月に「越前町財政健全化計画」が発表され、今後5年間の方策が具体的に示された。

そこで、現在の公共施設の管理・運営について伺う。本年度改定する「公共施設等総合管理計画」や「個別施設計画」に基づき持続可能な施設管理運営を図るとあるが、この計画とは。

総務理事

公共施設等総合管理計画は、長期的な視点を持って施設の更新・統廃合などを計画的に進めるため平成28年に国の要請に基づいて策定し、現在、計画の見直しをしている。個別施設計画は、総合管理計画に基づき、管理の現状と課題および対策の基本方針などを具体的に定める計画である。

時田

個別施設計画策定の進捗状況は。

総務理事

「公共施設」と「インフラ施設」の区分があり、公共施設では、保健福祉施設や文化施設など153の施設のうち73施設が策定済みである。今後水道施設などのインフラ施設についても策定に取り組みていきたい。

越前町での二ホンジカの状況について

シカ被害が増加、その対策は？

吉田

町が把握している、今年度の二ホンジカの被害状況は。

産業理事

県農業共済組合の被害届によると、令和3年度の被害面積は5.3ha、被害額は約325万円です。平成29年度と比較すると、面積3.4ha、被害額128万円の増加となっている。捕獲数も2月末で389頭と、5年前と比較すると既に281頭の増加となっている。

吉田

二ホンジカの捕獲が増加しているなか、捕獲した二ホンジカの処理は、埋設以外考えられないのか。また、防除対策について伺う。

産業理事

埋設処理のほか、県内には嶺南広域行政組合での焼却処理、大野市鳥獣対策協議会での微生物を活用した分解処理があるが、建設コストや維持管理経費、設置場所の確保や管理体制の確立が容易ではなく、今後も埋設による処理に頼らざるを得ない。施策としては、新年度から埋設手数料に加え、埋設地の所有者に対し1頭当たり千円の埋設謝礼を支払い、埋設場所の確保に努めていく。

防除対策においては、新年度から県の支援で、越前水仙の被害を抑えるため上岬地区にネット柵の設置を進めていく。

梅浦バイパスについて

完成の時期、伴う町の道路行政は？

吉田

一般国道365号梅浦バイパスの完成の時期は。

建設理事

平成28年度より工事に着手し、当初は完成が令和4年度と計画されていたが、県公共事業再評価委員会の事業審議を経て、令和5年度での完成に変更された。

吉田

梅浦バイパスの完成後、町の道

路行政にどのような生かしていくのか。

町長

梅浦バイパスは、県道路整備プログラムにおいて、観光地等を結び広域周遊観光ルートを形成する道路と位置づけられている。北陸新幹線金沢・敦賀間の開業により県外から多くの利用客が見込まれるため、国道365号八田・北山間の道路改良の早期着手や国道305号の道路改良の延伸などを県に強く求め、町内周遊観光の形成に努めていきたい。

通学支援制度の見直しについて

来年度予算において、高校生への通学支援の見直しを提案しているが、その内容について伺う。

時田

来年度予算において、高校生への通学支援の見直しを提案しているが、その内容について伺う。

総務理事

通学支援は、保護者の経済的な負担軽減を目的に、通学に係る定期代金に対して補助するもので月額5千円を超える額の全額を補助している。今回の見直しでは、月額5千円を超える額の5割を補助し、対象とする交通機関を原則町が支援するバス路線とした。ただし、自己負担額が急激に増加しないよう激変緩和期間を設け、令和4年度の補助率は8割、令和5年度は6割、令和6年度から本格導入することを提案している。

時田

保護者の自己負担額が増えるが、このような見直しを行った理由とは。

町長

本制度は、平成18年度に丹生高校の通学費支援として導入したが、平成28年度に現在の内容となつてからは対象者や範囲が急増し、開始当初137万円の補助金も、現在では4千200万円となった。現状は、月額5千円以上が全て町負担となり、上限がないことから補助額が大幅に膨らみ、

通学費の高い人と安い人では補助率に大きな差が出ている。一方で、町の財政状況は、経常収支比率が県内ワースト2位で財政が硬直化している。地方債の現在高は県内8町の中で最高額となっており、歳入の規模に応じた歳出構造への転換が喫緊の課題であることから提案をさせていただいた。

今回の提案は、補助総額を抑制しつつ、これまでの利用者が継続して支援を受けられ、補助率が公平になるような制度とした。見直し後も高校通学支援としては県内でトップクラスを維持しているの

時田

で理解をお願いしたい。直接、町民に影響することなので、丁寧な説明がされるよう要望する。また、制度改定により困窮する町民がいた場合には、違う制度により救済するよう検討していただきたい。

町長

困窮する町民に対しては、現在ある各種の給付金、奨学金制度の活用を配慮する。持続可能な行政運営につながるよう取り組んでいくので、ご理解とご協力をお願いする。





高田 浩樹 議員

いっぱん質問



佐々木 一郎 議員

町政一般について

人口減少対策は

佐々木

青柳町政になって1年が経過し、令和4年度の当初予算はどのような形で青柳カラーが反映されるのか、町民皆が深い関心を持っている。財政が厳しく、しかもコロナ禍の中、当初予算はどのように盛り込んだのか。
人口減少対策は、どの自治体も頭を痛めているが、どのような対策を考えているのか、町長の所見を伺う。

町長

人口減少の要因には、出生数の減少に伴う「自然減」と転出等による「社会減」がある。
自然減による対策は、若い世代が安心して暮らせる環境づくりに取り組み、若い新規婚姻世帯の住宅取得を支援する「結婚新生活支援事業補助金」を創設する。また出産支援として、4月から保険適用となる不妊治療の自己負担の一部を助成する。また、学校給食費については、小中学生の3学期分を無償化し、子育て世帯の負担軽減を図る。

社会減による対策は、定住促進策として、新たに「持ち家住宅建設促進事業助成金」を計上する。

これは、本町に5年以上定住する意思のある若者世代を対象に、補助金額は一律30万円とし、これに加えて、町内建築施工業者で新築した場合50万円を、さらに越前町産材や町内生産の越前瓦を使用した場合、それぞれ20万円を加算し助成する。

また、本町への移住を促進するため、国・県と共同して、新たに「Uターン移住就職支援金」を計上し、東京一極集中の是正のために国が行う事業により、東京圏からの移住者には最大100万円の支援を、福井県との共同により全国からの移住者には最大10万円を支援する。さらに、農林水産業従事者単身用住宅「ラ・クリア」を開設し、農林水産業の担い手の確保と定住促進を図る。

以上のような新規施策を盛り込み、人口減少対策に総合的に取り組んでいく。

今後の小中学校再編の進め方は

佐々木

教育行政については、児童・生徒の減少により、小中学校の再編が進められており、関係者への説明会も去年の12月までに終えた

が、今後の進め方について、町長の所見を伺う。

町長

子どもたちのより良い教育環境の実現のため、地域の皆様に活発な意見交換をしていただくための検討材料として「越前町小中学校再編基本方針案」を作成し、昨年10月から約1か月かけ、区関係者および保護者をはじめとした町民の方を対象に説明会を計16回開催し、たくさんの方の意見を頂戴することができた。

現在は、説明会に参加できなかった方を含め、町民の方から改めて意見を募集している。住民説明会で示したスケジュールなどは、あくまでも意見をいただくための検討材料であり、決定したものではありません。今後も意見を十分検討しながら修正を加えていきたい。

学校は教育施設であるだけでなく、防災拠点や住民同士の交流の場であることなど、地域コミュニティの核であるため、保護者と地域の十分な理解と協力がなければ、取り組むことができない。今後とも地域との議論を十分に重ね、合意形成が得られるまで時間をかけながら丁寧に進めていきたい。

コロナによる経済対策について

佐々木

コロナによる経済対策については、これまで国や県、各市町村はいろんな施策を講じ、本町でも独自の救済対策を行ってきた。なかでも飲食関係が大きな痛手を受けていると考えるが、今後の経済対策について伺う。

町長

国の事業復活支援金や県の事業継続支援金などの事業者支援策の周知を図るとともに、県が行う新型コロナウイルス対策事業との連携も検討していきたい。

本町の独自策としては、商工会や観光連盟などと協議し、町内店舗での飲食や買物といった消費の喚起策や、町内の小規模事業者などが国や県の事業採択には満たないポストコロナを見据えた取り組みへの支援策などを検討している。その上で、当初予算の編成後に、追加内示を受けた国の地方創生臨時交付金を有効に活用して、事業を提案したい。

佐々木

庁舎内以外の関係機関とも十分協議をして、この交付金の使途について検討してほしい。

人口構造の変化による主たる課題と展開

越前町の将来推計人口の傾向や特徴は？

高田

本町の将来推計人口について、全国や福井県との比較を通し、傾向や特徴を伺う。

総務理事

総人口において2015年を100とした場合、2045年に本町は56.3、国は83.7、県は78.1であり、本町の人口減少はどちらよりも速いスピードで進む傾向にある。

同様に、生産年齢人口(15歳～64歳)において2015年を100とした場合、2045年に本町は44.3であり、総人口より速いペースで減少が進むことが見込まれ、減少率の幅は、国、県の傾向より大きい。

本町の高齢者人口の割合は、2015年の31.4%が2045年には47.2%まで上昇。国、県よりも高い割合で高齢化が進むと推計されている。

高齢者人口の中でも特に85歳以上の人口は、2015年を100とした場合、2040年には、131まで増加。この時期にピークが発生するのは、国や県も同じ傾向である。

人口構造の変化による課題や対策は？

高田

将来の人口構造による影響、主たる課題の認識、対策等(具体的な施策を含め)について伺う。

町長

将来予想される高齢化を含む人口構造の変化は、人口減少の影響を更に深刻化するものであり、地域産業や地域の担い手の減少、さらには医療や介護等の生活基盤の分野にまで影響が広がることが危惧される。

これらに加え税収等の減少、財政規模の縮小により、困難な町政運営を強いられることとなる。

こうした厳しい状況を回避し、将来に向けて持続的に発展できるような、様々な施策に取り組む必要がある。

その中でも、移住・定住政策と子育て支援対策は重要な課題であり、これらの施策を充実させたいと考えている。

令和4年度予算にも盛り込んだ若い移住者や新婚夫婦が住宅等を取得する際の補助、学校給食費負担金の一部無償化など、若い世代が暮らしやすい環境をつくるための施策を展開していく。

広域による業務連携について、町長の所見は？

高田

本町の人口減少、人口構造の変化の中、従来からの自治体業務をフルセットで抱えていくということが可能なかどうか、広域による業務連携について、町長の所見を伺う。

町長

2030年から2040年頃にかけて生じると思われる85歳以上人口の急増と生産年齢人口の減少に対し、町独自の対応が困難となり、市町間の連携がさらに重要になると考える。

どうしても避けられない人的支援の限界には、先端技術の導入を国や県、市町の共通の課題として協働して取り組む体制の構築が必要だと考える。

令和2年度に地方制度調査会から地方行政体制の在り方に関する答申が出され、その中で持続可能

な形で住民生活を支えるためには、各自自治体それぞれの強みを生かし、資源を融通し合うなどの地域の枠を越えた連携中核都市圏の推進が示された。

中核市へ移行した福井市と社会的、経済的一体性を有する本町を含む嶺北10市町が、2019年に、ふくい嶺北連携中核都市圏を形成しており、来年度からは、嶺北成年後見センターが発足するなど、具体的な事業が動き始めている。

今後も隣接市町、丹南地域、そして嶺北地域などと連携を深めながら、持続可能で住民が安心して暮らせるまちづくりを進めていく。

高田

本町の人口減少、人口構造の変化は国や県、隣接する市町と比較して急激であることから、国や県などの認識以上に切実な問題が早期に直面する可能性がある。

人口減少、人口構造の変化を客観的に捉えるということは、それらによる影響、課題の大きさを直視することになるが、これから現実として起こりうることは何なのか、町長や私たち議会は、町民の皆さまと共有し、意見を交わし、また果敢であるとともに公平・公正さを持ってまちづくりを進めていくことが大切であると考える。

いっぱん質問



木村 繁 議員

移住・居住体験施設について

居住体験施設の現状と今後は

木村

本町には居住体験施設の「ラフォー」と「モハーージュ」がある。利用開始から約6年が経過したが、今日までの施設利用者の人数、世帯数、利用日数、また、実際に移住された方の地区別の人数、世帯数と併せて施設利用者の感想や意見など聞かせていただきたい。また、今後の活用プランについて、町長の所見を伺う。

町長

移住希望者等に定期間本町での生活を気軽に体験できる施設として、平成27年に越前地区に海辺の暮らしの体験施設「モハーージュ」を、平成28年に宮崎地区に里山暮らしの体験施設「ラフォー」を開設した。今日までの施設利用者の人数は223人、世帯数は90世帯、利用日数は796日である。

移住された方の地区別では、越前地区へ14人の14世帯と、織田地区へ8人の4世帯が移住されており、一定の成果を上げることができた。また、施設利用者からは「自然の中にあり、とてもよかった」「設備が使いやすい」「備品も十分で、快適に過ごせた」など、貴重な意見をいただいた。今後の活用プランは、1週間ほど滞在していただき、モハーージュでは定

置網漁体験や水仙の改植体験、ラフォーでは田植えや稲刈り、陶芸といった体験プログラムの受講を必須とした運用を図っていききたい。

なお、旅館業法の関係で、今後は体験プログラムを受講される方を限定とし、施設を無償で貸し出すことにした。今後も移住・定住に繋がれるよう、住宅や就労に関する情報を提供しながら、移住者の増加に努めていきたい。

木村

杉本福井県知事は、他市町に「居住」をされているが、本町の施設も体験していただくよう進言されていますか。

副町長

知事は、公約に掲げた徹底現場主義の一環として、大野市、高浜町への微住を続けられている。本町の魅力を肌で感じていただける絶好の機会と捉えており、私からも積極的に働きかけていきたい。



ラフォー



モハーージュ

スクールロイヤー制度について

※スクールロイヤーとは

学校で発生するさまざまな問題について、法律の見地から学校に助言する弁護士のこと。

木村

2020年より国が進めている「スクールロイヤー制度」は、学校が直面する様々なトラブルに対し、弁護士による中立の立場から解決することが期待されている。

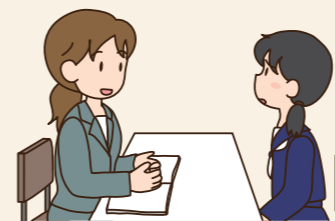
学校からも、専門家の助言を求める声が高まっており、アンケートでも「以前と比べ法的な相談が増加した」とある。今後の本町においてのスクールロイヤー制度について、教育長の所見を伺う。

教育長

本町では、学校での相談体制の充実を図るため、「スクールカウンセラー」と「スクールソーシャルワーカー」を設置し、各種相談に対応している。スクールカウンセラーは、児童等の臨床心理に関して専門的な知識および経験を有する者で、各学校における教育相談体制の充実を図ることを目的に、5名の方が町内小中学校を担当している。児童等の悩みを聞くだけでなく、教職員や保護者への助言も行っている。

スクールソーシャルワーカーは、福祉等の専門的な知識および経験を有し、児童等を取り巻く環境問題を解決することを目的に配置している。虐待に関する案件や不登校の児童等と保護者に対応しており、町内の学校からの要請によっては、児童相談所や警察などの関係機関とも連携や調整を図っている。

現在のところは、スクールカウンセラーなどの誠実で熱心な取り組みにより弁護士等の専門家に協力をお願いするまでには至っていない。しかし、近年は相談事案が深刻化しており、既存の体制だけでは解決が困難なケースもある。スクールロイヤー制度は、法的に解決するために非常に有効であり、今後そのような問題が発生した場合には、県教育委員会と福井弁護士会とで取り組む「スクールロイヤー活用事業制度」の活用や、町の顧問弁護士に相談するなどの柔軟な対応を図りたい。



議会・委員会・一部事務組合等議員出欠状況

12月14日～3月18日

○…出席 ×…欠席 △…遅刻・早退

月日	曜日	会 合 名	笠原 議長	佐々木 副議長	小松 議員	時田 議員	吉田 議員	石田 議員	長谷川 議員	中西 議員	高田 議員	藤野 議員	米沢 議員	伊部 議員	木村 議員	北島 議員
1	4 火	議員月例会	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	12 水	議会広報特別委員会	-	-	○	○	○	×	○	○	-	○	-	-	-	-
	18 火	産業土木常任委員会	-	○	○	○	-	-	-	-	-	×	-	○	○	○
	26 水	議会運営委員会 第1回議会臨時会	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○
2	7 月	議員月例会	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	14 月	公立丹南病院組合議会定例会	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
	15 火	県丹南広域組合議会定例会	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○
	16 水	鯖江広域衛生施設組合議会定例会	-	-	-	○	○	×	-	-	-	-	-	-	-	-
	17 木	県後期高齢者医療広域連合議会臨時会	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		鯖江・丹生消防組合議会定例会	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○
	25 金	議会運営委員会	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	○	○
3	7 月	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9 水	3月定例会 本会議 (1日目)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3月定例会 本会議 (2日目)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 木	総務文教厚生常任委員会 産業土木常任委員会	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-
	11 金	3月定例会 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
	14 月	3月定例会 本会議 (3日目) 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15 火	3月定例会 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16 水	3月定例会 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	17 木	3月定例会 全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18 金	3月定例会 本会議 (4日目) 議会広報特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

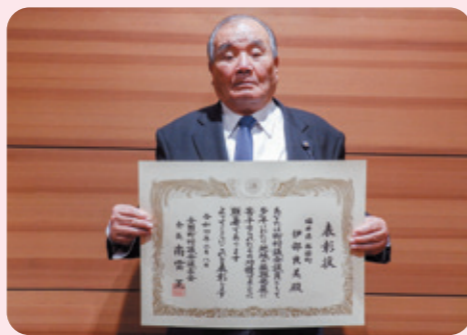
自治功労賞受賞

3月定例会終了後、全国町村議会議長会自治功労賞の表彰状伝達式が行われました。

議会議員15年以上在職者

伊部 良美 議員

地方自治の振興発展に大きな役割を果たされたことに敬意を表します。



表紙の写真 西徳寺保育園(厨)

(上段写真) 桜の木に囲まれた園庭の一枚です。海や山に囲まれ、たくさんの自然の中で、のびのび過ごす子供達。春には、野イチゴを探して食べてみたり、よもぎを摘んでクッキングを楽しんだりしています。季節を感じながら、新しい発見ができて、そこからみんなが考える、いろいろな遊びや学びに繋がっています。

(下段写真) 年中児の時に植えたチューリップの球根。みんなが年長さんに進級したことをお祝いするかのよう綺麗に咲きました。そして自分で育てたチューリップを、よく見ながら描きました。「花びらってこんなふうになってるんだね」「蜂も飛んできたから、描こう」「あっ、桜の花びらが散ってるよ」と、チューリップだけでなく、その時見たもの・感じたものをそのまま描き、一人一人の思いが詰まった作品が完成しました。

がんばって ます!

越前地区 ペタンク同好会

Interview activities



自己紹介をお願いします
私たちは、男女を問わず子どもからお年寄りまで簡単にできて、カーリングやボッチャによく似た「ペタンク」というスポーツを楽しんでいます。現在は男性8名、女性20名の60歳代から最高年齢92歳までの会員がいます。



活動内容について 教えてください

毎週火曜日と金曜日に、4月から11月までは体育館横のグラウンドで、12月から3月までは越前町宮越前体育館で、午後1時から午後4時まで一心に練習をしています。越前町長杯や県のペタンク選手権大会などに積極的に参加し、過去には全国大会に出場した経験もあります。

- ① 精神力を鍛える
- ② マナーを守る
- ③ 技術を高める

を目標に、日々練習に励んでいます。



最後に一言お願いします

老若男女が楽しめ、ルールも簡単で、みんなで和気あいあいと気軽に楽しめるスポーツです。皆さんも健康増進のために、一緒に始めませんか。

お気軽にお問い合わせください。
(インタビュー 中西)

お問い合わせ

倉内 徹 ☎ 37-0041

傍聴席へどうぞ 次の定例会は6月です

(日程については、議会事務局にお問い合わせください) TEL.0778-34-8712

編集後記

新緑の季節を迎え、4月から入学や入社によって新生活をスタートさせた町民の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

今春は春一番と共に、本町の丹生高校野球部が、選抜高校野球大会の21世紀枠で「甲子園初出場」というビッグニュースが入ってきました。結果は残念でしたが、選手や町民の皆様にとっては感動の一日となりました。丹生高校ナインには、今後の更なる活躍に期待致します。

さて、3月の定例会では「未来越前町へ希望を紡ぐ予算」が上程され、本会議において活発な議論を重ね、町民の皆様の生活基盤となる議案が全て可決されました。今年度におきましても、町議会へのご支援とご鞭撻をよろしくお願い致します。(米沢)

議会広報特別委員会

委員長 藤野 菊信
副委員長 小松 高宏
委員 米沢 康彦
中 西 清
長谷川 眞恵
石田 和朗
吉田 憲行
時田 和一良

町ホームページ
QRコード



(スマートフォン用)

町LINE
QRコード



(スマートフォン用)

町公式動画チャンネル
QRコード



(スマートフォン用)

バックナンバーが町のホームページでご覧いただけます

<http://www.town.echizen.fukui.jp/chousei/04/index.html>

町ホームページ
議会QRコード



(スマートフォン用)